

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201916		
法人名	社会福祉法人 弘友会		
事業所名	グループホーム サン・フラワー		
所在地	〒036-8066 青森県弘前市大字向外瀬字豊田320番1		
自己評価作成日	平成28年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人ひとりの個性を把握し、信頼関係を築き、理念に基づいた「達者でまみしくあずましく」過ごせるよう、思いやりを持ったケアを心掛けています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>山を眺める事ができる自然豊かな中に立地されている。周辺には、福祉施設が隣接しており、イベント交流をはじめ、災害時の協力体制や様々な情報交換が行われている。「達者で、まめしく、あずましく」の理念の基、本人、家族の意見を反映しながら、楽しい雰囲気の中、日々のケアが行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念、地域密着サービスの理念を会議で確認しあい、全員が理解した上で実現を目指して取り組んでいる。	地域の方に親しみやすい方言での「達者で、まめしく、あずましく」を理念に掲げ、会議や申し送り時に唱和を行い、職員間で周知され日々のケアの実践につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動等に参加したり、近隣施設の行事等に参加し合うなどし交流を持っている。	町内会のごみ拾いの活動参加や近隣の保育園・小学校・高校・福祉施設等とも、訪問、行事参加を通じ交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会等の行事の際、地域の方々にも参加して頂き一緒に過ごしている。また、運営推進会議等で認知症の方の理解について話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、警察、消防団、他施設職員等が会議に出席しており、意見交換や情報提供を受けている。会議で取り上げられた内容は職員間で共有し支援に活かしている。	2ヶ月に1回開催される会議では、事業所等活動状況の報告や市役所職員、警察からの情報提供が行われている。また、近隣のグループホームの職員も参加し情報交換が行われ、会議録にて職員間で共有されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、日頃より相談や確認事項があった際は連絡し、関係者よりアドバイスや情報等を頂いている。	運営推進会議以外でも、日常的に確認や相談を積極的に行っている。その都度、指導・助言を受けるなど良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を開き職員の共有意識を図っている。利用者一人ひとりを理解し、見守りや散歩等の気分転換を図り、拘束しないように努めている。また、マニュアルを作成し情報共有に努めている。	マニュアル作成の他に、法人内での研修に参加し、月1回の会議等で伝達されている。また、日々のケアの中で、利用者の状態に応じ、散歩や気分転換の対応が個別で行われるなど職員の共有意識が確立されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待についての研修会に参加後、知識習得のため高齢者虐待防止法に関する勉強会を開催している。また、入浴時や排泄時に異常がないか観察もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての重要性を意識し研修に参加したり、勉強会を開催したり知識の習得に努めている。また、マニュアルを作成し対応出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は理解・納得しているか確認しながら丁寧に説明している。特に料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携サービス提供体制強化について同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口にご意見ボックスを設置し、いつでも投函出来るよう筆記用具を準備している。運営推進会議には利用者及びご家族様に出席頂き、地域の方と意見交換出来る機会を設けている。	運営推進会議時の家族参加や面会の際、報告を行い要望等を聞いている。また、お会いできない家族には、毎月、手紙や電話での機会を設け、意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝と夕の申し送り・カンファレンス・会議では一人ひとりの意見や質疑応答等で活発な意見交換をすることによりコミュニケーションが図られ施設運営に反映している。	毎日の申し送り時、月1回の会議の他に、管理者と個別に面談する機会が毎月設けられ、運営や業務の改善に反映され、職員間の良好な関係にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1度、人事考課として代表者と面談し業務内容や目標等の報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、管理者は職員と面談し業務内容や目標等の報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の行事に招待されたり、当施設の行事に招待したり、また合同で行事をする等し意見交換や情報交換等をしてサービスの質の向上に努めている。また、併設施設内の部署との交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用にあたっては、相談があった時は必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに耳を傾け、職員は本人が受け入れてもらえる関係づくりを行い、安全確保に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際、家族から不安になるような事や、生活暦・思い等を出来るだけお話してもらい、入所前に理解を深められるように努め、また話しやすい雰囲気作りを工夫している。その中で事業所の対応についても話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋がるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、水分補給は皆で会話しながらホールで職員も一緒に喫食する。また、一緒にテレビ視聴しニュースの話題について話したり、歌番組の歌を一緒に歌う等家族として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手書きで家族へのお便りを発送し、本人の様子を報告する等交流を図っている。また、家族との交流会を実施し、本人・家族・職員と会食しながら絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ドライブで本人の自宅周辺をコースに設置したり、なじみのスーパーで買い物出来るよう計画している。	外出時に、利用者の馴染みの場所や自宅周辺を訪ねたりしている。また、年賀状を送る支援を行い、関係を継続する支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えを実施し、気の合った利用者同士快適に過ごせるよう環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の利用者に面会に行く機会を設け、家族との関係、経過を把握している。また、入院等の際も面会に行き家族の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人としっかり向き合い、話を聴き希望や意向の把握に努めている。言葉や表情から真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	家族からの情報や、日常の利用者との会話やしぐさから思いを把握することに努め、職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員、利用者や家族からの情報により生活歴・馴染みの暮らし方の把握に努めている。今までと同じように生活出来るような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康観察を行い、心身の状態を見極め、個別ケアを重視し有意義な1日が過せるよう支援し、夕方に入居者への働きかけ方を含めて、確認・記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	裏ニーズの発見に努め、定期的なカンファレンス以外にも毎日の申し送り時にも意見を交換し、サービス内容の変更追加を行っている。問題点・改善点がよりわかりやすくなるようH28.4月からモニタリング等の様式を変更する。	月1回のモニタリングの他に面会時の家族からの要望や、職員の意見を取り入れたサービス内容になっている。他の事業所とも情報を交換し、様式を変更したりと工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書き方について定期的に勉強会を実施し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ個々の希望に添えるよう、家族と相談し柔軟な支援が出来るようにしている。通院や送迎の支援・併設施設のトレーニングマシンやカラオケ・慰問行事等の交流やサービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーは町会長・民生委員・警察・地域包括支援センター・社会福祉協議会が参加し施設周辺情報や支援に関する意見交換も活発に行い、案内書も必ず持参し情報交換を行い地域活動にも参加するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を重視し、契約時協力病院の話をし良ければ受診してもらうようにしている。本人のかかりつけ医と信頼関係を築き適切な医療を受けられるように支援し、受診結果は必ず家族に電話等で連絡し情報の共有をしている。	契約時に主治医の継続の確認が行われており、本人、家族の希望が重視されている。入居前のかかりつけ医の受診に対しても対応しており、受診後は家族にも報告されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結び24時間連絡可能な体制にしており週1回の来設と電話を必須とし本人の状態報告・相談・助言・対応を行っている。、少しの変化でもあった場合携帯電話等で看護師に連絡し支持を仰ぎ適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、主治医・家族・病院の関係者と話し合い、病院と情報交換を行い早期に退院出来るようにしている。面会に行ったり、家族と連絡を取り合ったりし退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成しており、本人が重度化した場合は本人や家族との話し合いの場を持ち、意向を確認している。管理者・担当職員・家族・本人とで話し合い、出来る事出来ない事を一緒に考え、本人主体の前向きな話し合いが出来るようにしている。	看取りは行っていないが、重度化した際の指針は作成されており、契約時に説明され同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急・避難訓練を定期的実施している。また、救急法の研修を行っており職員は積極的に参加している。マニュアルも作成しすぐ対応出来るように体制を整えおり、24h看護師への連絡体制も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設施設と合同避難訓練を行っている。(1回は夜間想定)職員は利用者が安全に避難出来るよう技術を得ている。近隣施設の協力体制も出来ており、運営推進会議でも取り上げ地域の協力を呼びかけている。	災害時のマニュアルが整備されており、年2回の合同避難訓練も行われている。町内会や近隣の事業所とも協力体制が出来ており、非常食等も備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の利用者や人前で本人を傷つけないよう言葉掛けに配慮し、さりげなく自己決定しやすい言葉掛けをするよう心掛けている。また個人情報の守秘義務について理解し責任のある取り扱いをしている。	職員の声掛けも穏やかで、人格を尊重し、周囲を意識した言葉かけがされている。守秘義務に関しても会議等を通じ、職員間で周知されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手が理解しやすい言葉掛けを意識し表情や動きを良く見ながら本人の希望に合うよう耳を傾け自己決定しやすい支援を行っている。本人がしたい事や思いが素直に言えるような雰囲気作りにも気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク参加の有無、余暇の過ごし方、入浴の声かけ等その都度本人に確認し、希望通り出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出・通院・行事等に行く場合は職員と一緒に服を選んだり化粧をしたりと身だしなみの手伝いをしている。毎日の整髪・身だしなみは必ず確認し自分で選べる方は本人の好きな服を着ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の食べる量に合わせ一口大のおにぎりを作ったり、気分や体調に合わせてそうめんを提供している。また、誕生会等のイベントではバイキング形式で好きな物を好きな量を選んで頂き喫食出来る環境を整備している。	一人ひとりの状態に合わせた食事形態の工夫の他に、毎週行われるおやつ作りやバイキング方式での食事の提供、ホットプレートを用いて一緒に調理するなど、食事を楽しめる企画が行われている。希望に応じドライブを兼ねて外食にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量に関しては、本人の好みに合わせ随時飲めるようジュース・アイスクャンディ・ココア等を常時準備している。また、かんてんを常備しゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、マウスウォッシュを使用し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	竹内理論のオムツO計画を実践し、水分強化にて失禁減少につなげている。	一人ひとりの排泄パターンをチェック表を用いて把握されており、水分補給に関しても力を入れており排泄レベルの向上につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために毎日の運動と水分補給の徹底を行っており、排便チェックも行い便秘早期発見に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に週3回の入浴としている。バイタル測定後体調を見て入浴するが、希望によりホームの浴室以外の併設施設の温泉を利用するなどしゆったりくつろげる支援を心掛けている。またシャワー浴や清拭も対応している。	同建物内の温泉施設を利用し、一人ひとりのペースに合わせ、週3回入浴が行われている。様々な入浴剤を使用したり、りんご風呂やよもぎ風呂など入浴を楽しめる工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は趣味活動やアクティビティ等をし穏やかに過ごしていただき、午後はレク活動・個別リハ等を取り入れ体を動かす体操をしている。昼は1時間ほど体を休める時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容は全職員で理解出来るように処方箋や薬表を綴っており、内服変更時はその都度業務日誌やケア記録に記述し申し送りに必ず状況報告している。服薬時は本人に必ず手渡しきちんと服用したか確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴ややりたい事・出来る事を理解した上で職員と一緒に楽しみを繋げている。作品を作る時もお手伝いをお願いすることにより入居者の表情が生き生きとしている様子が伺える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見て対応するように努力している。ただ緊急での外出等は勤務体制が難しい時もあり、外出が無理な場合は庭の散歩や屋上に行つて外気にあたるようにしている。また家族に外出等の協力もお願いしている。	月に1回は、行われており、季節を感じられる観光や旬な食事を堪能する外出も企画されている。近隣に限らず市外へも外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域交流でのお祭りやドライブ・買い物等の外出にはお金を所持してもらい使える場面を提供している。お金を使用する際は本人の希望を聞きながら買いたい物を買えるように支援し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や書中見舞いを出す支援を行っている。また入居者の希望によりいつでも家族等に電話をかけた手紙を書く支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ温度調節にも配慮している。窓は大きく風景を楽しめるようになっており、花壇には花々を植えたり、リビングには手作りの絵や飾りで季節感が味わえるように工夫をしている。	手作りの作品や行事写真が飾られており、安心して、穏やかに過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が向かい合って話せるようなテーブルの座席にしている。またソファに座りながら新聞を読んだりテレビを見ながら談話をしたり入居者が寛げるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真や思い出の品々等の馴染みの物を持ってきてもらい、居室内で居心地よく過ごせるように本人や家族と話し合い工夫をしている。	鉢花を育てている方や自宅で使用していた家具を持ち込んでいる方、行事の写真等、思い出の写真を飾る方など、一人ひとり個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険が伴うと分かる行為は職員が介入し静止しているが、それ以外は一人ひとりが思った通り暮してもらえよう声がけや見守りに徹している。職員は入居者の残存機能を理解し自分で出来る事は促し、状況に合わせた環境整備を行い自立支援に繋げている。		